

日本興亜9条の会たより

電話(携帯): 090-6523-1351

e-Mail: nw1951@lily.ocn.ne.jp

この臨時国会で安倍9条改憲の発議をさせない!

9月の沖縄県知事選では、オール沖縄の玉城デニー氏が圧勝しました。辺野古に新基地を作らせないという故翁長前知事の揺るがぬ遺志を沖縄県民がしっかりと受け止めた結果となりました。度重なる県民の「民意の表明」に米紙ニューヨーク・タイムズも「日米両政府は妥協点を見つけろ」とする社説を掲載しました。

一方、自民党総裁選で3選を果たした安倍首相は、一連の不祥事の説明・解明には「真摯に 丁寧に 誠意をもって」と空念仏のように唱えるだけで、実際は何も対応をとらず放置する反面、「総裁選は憲法改正についての考えが最大の争点であった。結果が出た以上、大きな方針に向かって一致結束して進んでいかななくてはならない」、「次の国会で提出できるよう取りまとめを加速する」と前のめりの強い決意を示しています。

親日家で知られ、憲法9条を評価するマレーシアのマハティール首相は、国連総会後の記者会見で「もし改憲して戦争することを許容するなら大きな後退だ」と警鐘を鳴らしています。

「平和であってこそその損保産業」です。私たちは良識ある広範な市民の方々、立憲野党の皆さんと力を合わせながら、この臨時国会で安倍9条改憲の論議や発議をさせないため、新たな決意をもって取り組みましょう。

「損保9条の会 第15回講演会」に揃ってお出かけ下さい

講師 伊藤 真 さん(九条の会世話人、弁護士)
安民法制違憲訴訟の会共同代表、伊藤塾塾長
日弁連 憲法問題対策本部副本部長
日時 11月23日(金・祝) 14時～(13時開場)
場所 北とぴあ 15階ペガサスホール
演題 「日本国憲法の価値を考える」
～立憲主義を回復し、新しい政治を展望する～

<詳細は、同封の講演会チラシを参照下さい>

昨年は、会場定員を上回る180名(日本興亜9条の会から32名)のご参加をいただきました。今年も同規模を目指します。定員オーバーの際も隣接のロビーに設置のモニターでご覧いただけますので心配ありませんが、**席取りは禁止**とさせていただきますので、少し早めにお出かけ下さい。

講演会終了後、近く中華料理店で恒例となった**懇親会を開催**します。人数把握のため、出席予定を講演会・懇親会それぞれ**前日までに、事務局和田宛**ご一報下さい。

「安倍改憲 NO!」を合言葉に

3000万人署名にひき続き取組もう

安倍9条改憲に反対の意思を示し発議を止めさせるのは世論の力です。黙っていても、なかなか追い風は吹きません。自らが国会前等の行動・集会に参加して声を上げるとか、集会参加は難しくても周りの人との対話や署名などの行動に取り組むことで何かが変わるのではないのでしょうか。

昨年9月にスタートした「安倍9条改憲 NO! 全国市民アクション」による3000万人署名運動は、すでに1350万筆が国会に提出され、その後も草の根に広がっています。直近では1800万筆を超えているとの情報もあります。日本興亜9条の会の集約数は、現在463筆(損保9条の会全体では4266筆)となっています。この間何度もお願いしご協力いただいておりますが、いま、私たちにできること…。一人でも多くの仲間と対話を深め、賛同を得る取り組みをさらに広げるため、別紙の講演会チラシの裏面に「3000万人署名」用紙を改めて印刷・ご用意しました。皆さまのさらなるご協力よろしくお願いたします。

署名用紙の送付は、「日本興亜9条の会事務局あて」、または用紙の最下段に記載の署名取り扱い団体の「損保9条の会あて」(この場合は日本興亜分と書き添えて下さい)にお願いします。いずれも返送に要する切手代は、カンパとしてご負担をお願いいたします。

若干、時期を逸した感がありますが、九条の会アピールが出されていますので、紹介いたします。

9条改憲 NO！の巨大な世論の輪を ～自民党総裁選・臨時国会を前にして～

【九条の会 アピール】

秋の臨時国会を前に、安倍改憲の策動は新たな局面を迎えています。9月20日の総裁選に立候補を表明した安倍晋三首相は、地元下関で8月12日、「自民党として次の国会で提出できるよう(改憲案の)取りまとめを加速する」と述べました。続けて、麻生派が総裁選に向けての政策提言で打ち出した「来年の参議院選挙までの憲法改正国民投票実施」という方針に「基本的に考え方は全く同じ」と述べて、改憲強行に改めて異常な決意を表明しています。対抗馬の石破茂元幹事長も、9条2項削除による改憲を主張し、緊急事態条項導入などの改憲に意欲を示しています。

9条2項を維持したまま「自衛隊を憲法に明記する」自民党の9条改憲案が、現在の9条を根本から破壊して、日本をアメリカと一緒に海外で「戦争する国」に変えてしまうことを、すでに私たちは繰り返しアピールしてきました。九条の会も参加して昨年9月からスタートした「安倍9条改憲 NO！全国市民アクション」による3000万署名運動は、5月3日時点で1350万筆に達し、その後も3000万を目指して草の根に広がっています。

こうした広範な改憲反対の世論を前にして、自民党は、今年の党大会では9条改憲案を正式に決定できず、通常国会の憲法審査会で改憲案について議論することすらできませんでした。「臨時国会で改憲論議に持ち込み、参院選前に国民投票」という安倍首相らの言説は、こうした世論に対するあからさまな挑戦です。

今、6月の米朝首脳会談等を通じて、アジアの平和実現に向けて大きく前進するチャンスがおとずれています。私たちが、真に平和を望むのであれば、憲法9条の立場を堅持して、この動きに積極的に参画していくことが求められています。それは、沖縄の辺野古新基地、イージスアショア、オスプレイ配備など、日本をアジアにおける戦争の拠点にするたくらみに対して断固として反対することと深く結びついています。また、核兵器禁止条約の署名とその発効に背を向ける政府の立場を転換させることも、アジアの平和の実現に重要な一歩となるでしょう。

自民党が新たな総裁の下で臨時国会を改憲策動の新たな盛り上げの場にしようとしている今こそ、臨時国会を改憲論議の場に決してさせない、次期通常国会で改憲発議を絶対に許さない、そして来年の参議院選挙では改憲派の3分の2の議席獲得を許さず安倍内閣を退陣に追い込むという意思を固めましょう。それが改憲を阻む最大の保障です。そのために3000万署名運動の達成を目指して新たな決意で取り組みましょう。

2018年9月14日 九条の会

8/4 「講演と戦争体験を聞くつどい」に130名

琉球新報東京支社報道部長の滝本巧さんを講師に迎えた「講演と戦争体験を聞くつどい」は、会場の定員を上まわる130名（うち日本興亜九条の会からは19名）の参加で、立ち見も出る盛況でした。

講演「いま、沖縄で起こっていること」は、滝本さんがプロジェクターを使い、沖縄の現状をわかりやすく報告されました。休憩をはさみ多くの参加者からの意見・質問に丁寧な応答があり、2時間を超える豊かな内容あるものとなりました。第2部の「戦争体験を聞く」では、藪田豊さん（元大成火災）、塚本治子さん（元大正海上）が自らの戦争体験を生々しく語ってくれました（持ち時間が少なく十分話せなかった点は、損保九条の会ホームページに掲載予定ですので、ご覧下さい）。

終了後は単位会ごとに懇親会を持ちましたが、日本興亜九条の会は12名が近く中華料理店で、つどいの感想や近況報告を出し合うなど大いに盛り上がり、持ち込みの日本酒2本もあつという間に空にするほどの年代を超えた熱い交流会となりました。